

平成 28 年 9 月 6 日

博士課程教育リーディングプログラムのもとで設置した大学院学位プログラムの
補助事業終了後の継続に関する考え方

総 長

博士課程教育リーディングプログラムは、「優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラム」を支援する文部科学省の補助事業である。本事業は平成 23 年度から 3 年間公募され、本学から計 9 件のプログラムが採択された。これらのプログラムでは、優れた博士人材の育成に向け、従来の大学院教育の枠を越えた部局間の連携や融合、産業界や海外研究機関等との連携、QE による質保証など、新たな試みやプログラムごとの工夫が多く取り入れられ、その成果が出始めている。

本事業への申請にあたり、東京大学は大学院規則を改定し、学位プログラム制度を新たに整備した。また、申請及び 23・24 年度採択プログラムの中間評価において、東京大学は、補助事業終了後も各々の学位プログラムを継続することを明言している。すなわち、これらの学位プログラムは、大学院規則に定める正規の教育制度であり、その安定的継続をはかることは本学の運営の信頼性という観点で極めて重要である。

本事業の支援期間は 7 年間であるため、平成 23 年度採択のプログラム 3 件は平成 29 年度で終了し、平成 24 年度の 3 件、25 年度の 3 件は、それぞれ平成 30 年度、31 年度で終了する。プログラムに参加している大学院学生の中には、学位プログラムの標準修業年限がプログラムの支援期間終了後に及ぶ者がおり、補助事業の支援経費の多くは学生の経済的支援に充てられていることから、支援期間終了後も安定的に継続できるか否かは、プログラム参加学生の修学を左右する問題でもある。

東京大学は、昨年 10 月に公表したビジョン 2020 において、大学院強化をその中心に据え、「国際卓越大学院」を創設することを掲げた。現在、その実施に向け、全学的な検討が進められている。

国際卓越大学院の構想は、博士課程教育リーディングプログラム、グローバル COE プログラム、21 世紀 COE プログラムなどのこれまでの大学院支援事業のもとで進めてきた取り組みの成果を活用しつつ、大学院教育のさらなる強化を進めるものであり、これら補助事業の枠にとらわれず、より柔軟なプログラム設計を可能にし、東京大学の特長をより際立たせた大学院教育システムの構築をめざしている。それゆえ、博士課程教育リーディングプログラムで推進されてきた修博一貫の学位プログラム制度や様々な取り組みが国際卓越大学院に取り入れられることは自然であり、博士課程教育リーディングプログラムによ

る学位プログラムの多くは、規模や内容について適切な改良修正を経て、国際卓越大学院に組み込まれることを想定している。したがって、当該部局ならびにプログラム関係者には、このことを前提に各学位プログラムの継続及び各プログラムの改良修正を検討することを強く期待したい。その際、補助事業終了後は上述のとおり、より自由なプログラム設計が可能となることに留意すべきである。

その上で、ビジョン 2020 に基づく大学院強化のアクションである国際卓越大学院整備の一貫として、博士課程教育リーディングプログラムによる学位プログラムの継続にかかる学生への経済的支援については全学として対応することとする。

具体的には、補助事業期間内に学位プログラムに参加した学生が、各学位プログラムの修了年限まで経済的に不安なく研究や学びに専念できるよう、補助事業終了後も学生への経済的支援を継続したい。その際、平成 30 年度からは、新たな大学院教育支援事業として文部科学省の卓越大学院制度がスタートする見込みであり、その予算措置内容は未定であるが、この事業も積極的に活用していくこととする。

なお、この学生への経済的支援の規模は、各プログラムの中間評価の結果や国際卓越大学院として新たに整備する各プログラムの内容などを考慮して定める。

また、プログラム参加学生への経済的支援以外の事業経費については、通常の予算要求のプロセスの中で当該部局が要求し、他の事業と同様な審査プロセスを経て適切に措置することとする。

以上